

報 告

養育者が認知する幼児の特徴と質問紙による
気質評価の関連

武井 祐子

【論文要旨】

本研究は、養育者が認知した子どもの特徴と幼児気質質問紙で測定された気質特徴との関連性を検討し、適切な対応について考察することを目的に実施された。その結果、養育者は子どもの特徴を活動性および活動の質に関する肯定的な内容で認知していた。さらに、養育者が認知した子どもの特徴と客観的指標の1つである気質尺度との間には、一定の関係が見出された。しかし、養育者が認知した特徴のなかには、気質特徴の違いにかかわらず、1歳半から2歳児において共通して見出される特徴が認められた。養育者が子どもの特徴を認知した際に、それをより客観的、詳細な指標で検討していくことで、養育者への適切な助言も可能になると考えられた。

Key words : 気質, 幼児, 幼児の特徴, 質問紙

I. はじめに

養育者は、日常的な子どもとの関わりを通じて、自身の認知的枠組みから漠然と子どもの特徴を認知する。例えば、あまり大声を出さず、活動性の少ない子どもは「おとなしい」と認知され、常に活動的に動き、元気な子どもは「活発だ」と認知される。この養育者が認知する子どもの特徴は、養育者が子どもへの対応のあり方を決定する際の判断材料になることは少なくない。

養育者が認知した子どもの特徴と養育者の育児ストレスや育児不安などの心理的問題との関連性は先行研究で指摘されている^{1)~3)}。子どもの特徴は、能力検査や性格検査などで把握することができるが、なかでも気質を理解することは、子どもの健全な発達を促し、養育者の育児上の心理的負担を軽減すると指摘されてい

る⁴⁾。したがって、専門家は子どもの気質を、客観的な指標で把握し、適切な対応を助言する必要があると考えられる。

客観的な指標の1つと考えられる幼児気質質問紙は、従来から検討されてきた。そのなかで、2年間かけて得られたデータに因子分析を実施し、日本の文化に馴染んだ内容で、相談現場で使用するのに適切な項目数、尺度の因子的妥当性が確認された幼児気質質問紙が作成されている⁵⁾。この幼児気質質問紙は、否定的感情反応尺度(9項目)、神経質尺度(10項目)、順応性尺度(6項目)、外向性尺度(8項目)、規則性尺度(7項目)、注意の転導性尺度(7項目)の6尺度47項目から構成されている(表1)。

この幼児気質質問紙で測定される気質特徴は、子どもの問題行動⁶⁾や育児不安⁷⁾、実際の遊び場面で子どもが示す行動との関連性^{8)~10)}が確認されている。しかし、養育者が日常の関わ

The Relationship between the Toddler Characteristics which were Described by a Parent and the Toddler Temperament which was Assessed by the Questionnaires

[1817]

Yuko TAKEI

受付 06. 4. 3

採用 06. 9.25

川崎医療福祉大学医療福祉学部(研究職/臨床心理士)

別刷請求先: 武井祐子 川崎医療福祉大学医療福祉学部臨床心理学科 〒701-0193 岡山県倉敷市松島288

Tel: 086-462-1111 Fax: 086-464-1109

りを通じて認知、記述する子どもの特徴との関連性は検討されていない。養育者は、自身が認知した子どもの特徴に応じて育児行動を行っている。よって、幼児気質質問紙との関連性を検討することで、子どもの特徴を客観的に理解でき、子どもの問題行動や養育者の育児不安を低減させる対応が明らかになると考えられる。

そこで、本研究では、研究1において、養育者が日常の関わりを通じて子どもの特徴をどのように認知し、記述するのかを確認し、研究2において、研究1で確認された特徴と幼児気質質問紙⁹⁾で測定された気質特徴との関連性を検討し、適切な対応について考察する。

II. 研究 1

1. 目的

幼児の行動特徴を養育者がどのように認知しているかを明らかにした。

2. 対象

K市が2002年8～12月に実施した1歳6か月児健康診査(以下、1.6健診と記す)対象者1,972人のうち、受診者は1,620人であり、質問紙回収者1,171人(回収率59.4%)を対象とした。回答者は1,143人(97.6%)が母親であった。対象幼児の年齢は12～23か月、平均18.2か月(SD=0.8)、性別は男児586人、女児580人、不明5人であった。

3. 方法

2002年7～11月にかけて、1.6健診時に使用する問診票とともに、以下の質問票を健診受診月の約1か月前に郵送し、2002年8～12月まで健診会場で回収した。なお、実施目的と分析方法、プライバシーの保護について説明し、同意が得られた場合に無記名での回答を依頼した。質問票では「お子さんは一言で言うと、どんなお子さんですか?」(性格・特徴)という質問に対し、自由記述での回答を求めた。また、対象幼児の生年月日、年齢、性別、対象幼児と記入者の関係を記入する欄を設けた。なお、分析に必要な回答項目に記述がない場合は分析対象から除外したところ、有効回答票数は970票となった。

表1 各気質尺度の項目内容

否定的感情反応尺度

- 思いどおりにならないと、激しく感情を表す。
- 遊びがうまくいかないと、泣き出す、金切り声。
- よくさわいで、大泣きする。
- 短気で、怒りっぽい。
- 新しいことを覚える時、いらだつ、泣く。
- 遊びをあなたが妨げると、激しく嫌がる。
- 泣いたり、怒ったりした時、地団駄をふむ。
- 叱られたり、注意されると、不機嫌な状態が続く。
- 一日中ぐずっている不機嫌な日がある。

神経質尺度

- 1～2度強く叱られると、同じ失敗をしない。
- 物を整えたり、きれいにしておくことにこだわる。
- 服が濡れるとすぐ気づき、服をかえてもらいたがる。
- してはいけないことを、言い聞かせるとやめる。
- 快・不快を問わず、においに敏感である。
- あなたの髪型や服装の変化に気がつく。
- 何かをしていた時、中断しても、同じ活動が続ける。
- 欲しいものがすぐもらえなくても、我慢して待つ。
- 「やめなさい」と言われても、勝手に行こうとする。
- 何回注意しても、行ったり、さわったり。

順応性尺度

- 初対面の人に体をさわられると、泣く、嫌がる。
- 他の人がそばにいと、しがみつく。
- 初めての場所で、最初数分間、不安そうにする。
- あなたから離れる新環境に、比較的是やく慣れる。
- 知らない人にも、すぐに話しかける。
- 知らない人に遊んでもらっても、機嫌よくする。

外向性尺度

- 座って遊ぶより、飛び跳ねたりする遊びを好む。
- 1人で遊ぶよりも人と遊ぶほうが好きである。
- 新しいことに対して好奇心が強い。
- 初めての場所を探索している時、活発に動き回る。
- 同一の子どもとしばらく遊びが続く。
- 他の子どもたちと一緒にいる時、機嫌よくしている。
- 初めて見る小動物に近寄り、遊ぼうとする。
- 自分一人でいろいろしたがる。

規則性尺度

- 夕食の時に食べる量は、毎日大体同じである。
- 朝食の時に食べる量は、毎日大体同じである。
- ベッドに入ってから眠るまでの時間は、一定。
- 食べている時、気をそらさず最後まで食べる。
- 朝、目覚める時刻は、毎日大体同じである。
- 1日で、活動的になる時間帯は、ほぼ決まっている。
- 昼寝の長さは、毎日大体同じである。

注意の転導性尺度

- 電話のベルで、食べるのをやめ、音の方を見る。
- 電話のベルで、遊びをやめ、音の方を見る。
- 誰かがそばを通ると、遊びをやめてそちらを見る。
- 他の子どもたちの遊んでいる声で、そちらを見る。
- あなたが部屋に入ると、遊びを中断、見る。
- 好きなテレビの時、呼びかけると、振り返る。
- お気に入りのおもちゃで遊んでいる時は、無視。

注1) 各項目とも文章を簡略化して示した。

注2) 順応尺度は尺度得点が高いと順応性が低いことを示す。

自由記述の内容から、子どもの特徴と考えられる内容をすべて抜粋したところ、45の特徴がみられた。45の特徴ごとに記述あり群と記述なし群に分け、人数を集計した。養育者が自身の子どもについて複数の特徴を記述している場合は、それぞれの特徴について記述あり群としてカウントした。なお、解析には統計ソフトウェア SAS を使用した。

4. 結 果

記述が多かった特徴から順に表 2 に示した。

第一に多くみられた記述内容は、“活発”，214 件であった。ついで、活動の質に関する特徴である“明るい”が158件，“元気”142件，“人見知りがない”117件，“甘えん坊”103件であった。

一方，“手がつけられない”が52件，“落ち着きがない”47件，“短気・癪癪もち”43件，“わがまま”41件，“よく泣く”33件，“頑固”28件であった。

5. 考 察

養育者は、子どもの特徴を“活発”，“明るい”，“元気”など活動性や活動の質で認知する傾向が認められた。養育者の子どもの特徴に対する認知が活動性およびその質に偏って記述される理由として以下のように考えられる。今回対象となった子どもの年齢は、1歳半から2歳前である。この頃の子どもは、歩き始めて、活発に動き回るようになることや、有意味語を話し始めるため、言葉を交えて自己表現をするようになる。その結果、この時期の子どもは積極的に人との関わりを求めるようになり、養育者は子どもの活動性およびその質についての記述が多くなると考えられる。

一方、件数としては少ないが、“手がつけられない”，“落ち着きがない”，“短気・癪癪もち”といった特徴も記述されていた。これらの特徴は、養育者に対応の困難さを感じさせる特徴と考えられる。特に、落ち着きのなさは養育者の不安との関連が指摘されている¹⁾。これらの特徴が記述された場合、専門家は、養育者の不安を和らげるとともに、これらの特徴がどのような子どもの気質と関連があるかを検討し、適切な対応を助言していく必要があると考えられ

表 2 自由記述であげられた特徴の記述なし群・あり群の人数分布

子どもの特徴	記述なし	記述あり
活 発	756人	214人
明るい	812人	158人
元 気	828人	142人
人見知りがない	853人	117人
甘えん坊	867人	103人
大人しい	895人	75人
好奇心旺盛	896人	74人
人見知りがある	904人	66人
自分の意志がはっきりしている	906人	64人
笑 顔	909人	61人
手がつけられない	918人	52人
面白い	920人	50人
負けん気が強い	920人	50人
マイペース	921人	49人
わんぱく	922人	48人
落ち着きがない	923人	47人
育てやすい	924人	46人
短気・癪癪もち	927人	43人
わがまま	929人	41人
優しい	935人	35人
よく泣く	937人	33人
積極的に手を出す	938人	32人
頑 固	942人	28人
可愛い	947人	23人
観察する	943人	27人
臆 病	947人	23人
のんびり	952人	18人
自分でやろうとする	953人	17人
感情の起伏が激しい	955人	15人
好き嫌いがはっきりしている	956人	14人
恥しがり屋	957人	13人
落ち着きがある	958人	12人
気が強い	958人	12人
よく遊ぶ	958人	12人
自由奔放	959人	11人
よく気が付く	959人	11人
利 発	960人	10人
機嫌がよい	963人	7人
素 直	963人	7人
辛抱強い	964人	6人
注意力がない	964人	6人
自己中心的	966人	4人
清潔好き	968人	2人
わかりやすい	968人	2人
女の子らしい	969人	1人

る。

Ⅲ. 研 究 2

1. 目 的

養育者が記述した子どもの特徴が気質のどの

ような側面と関連するかを明らかにし、適切な対応について考察した。

2. 対象

K市が2003年6～11月にかけて実施した1.6健診対象者2,322人のうち、受診者は1,948人であり、質問紙回収者1,550人（回収率66.8%）を対象とした。回答者は1,514人（97.7%）が母親であった。対象幼児の年齢は17～22か月、平均18.2か月（SD=0.7）、性別は男児789人、女児743人、不明18人であった。

3. 方法

調査手続きについては、研究1と同様であった。有効回答票数は1,349票であった。研究1の自由記述で得られた45の幼児の特徴について、件数が多く、かつ、子どもの特徴として理解しやすい内容であることを基準に、心理学を専門とする大学教員3人、心理学専攻の大学院生1人が協議し、25の特徴を選択した。これらの25の特徴について、自身の子どもに該当するか否か、回答を求めた。研究1と同様に、対象幼児の生年月日、年齢、性別、対象幼児と記入者の関係を記入する欄を設けた。さらに、6尺度47項目からなる気質質問紙（表1）⁵⁾に、1.“全くない”から4.“いつもある”のうち、最もあてはまるものに丸印を付けるよう求めた。なお、解析には統計ソフトパッケージSASを使用し、25の子どもの特徴について、該当するとした群（以下、該当群）と該当しないとした群（以下、非該当群）で、各尺度平均得点の差についてt検定を行った。

4. 結果

結果を表3に示した。

否定的感情反応尺度の得点は、“短気”、“感情の起伏が激しい”、“わがまま”などに該当する場合は、ない場合に比べ、有意に高いことが確認され（ $p<0.01$ ），“明るい”、“優しい”、“素直”などに該当する場合は、ない場合に比べ、有意に低いことが確認された（ $p<0.01$ ）。

外向性尺度の得点は、“活発”、“好奇心旺盛”、“積極的”などに該当する場合は、ない場合に比べ、有意に高いことが確認された（ $p<0.01$ ）。

順応性尺度は、得点が高いほど順応性が低いことを示している。順応性尺度の得点は、“積極的”、“人見知りがない”など、環境への慣れやすさを予測させるような特徴に該当する場合は、ない場合に比べ、有意に低いことが確認され（ $p<0.01$ ），“好き嫌いがはっきり”、“臆病”、“よく泣く”、“甘えん坊”など環境への慣れにくさを予測させるような特徴に該当する場合は、ない場合に比べ、有意に高いことが確認された（ $p<0.01$ ）。

神経質尺度の得点は、“素直”、“よく気がつく”、“育てやすい”などに該当する場合は、ない場合に比べ、有意に高いことが確認され（ $p<0.01$ ），“短気”、“よく泣く”、“わがまま”などに該当する場合は、ない場合に比べ、有意に低いことが確認された（ $p<0.01$ ）。

規則性尺度の得点は、“素直”、“機嫌がよい”、“育てやすい”などに該当する場合は、ない場合に比べ、有意に高いことが確認され（ $p<0.01$ ），“よく泣く”、“わがまま”、“頑固”などに該当する場合は、ない場合に比べ、得点がありに低いことが確認された（ $p<0.01$ ）。

注意の転導性尺度の得点は、“優しい”、“よく気がつく”、“落ち着きがない”などに該当する場合は、ない場合に比べ、有意に得点が高いことが確認された（ $p<0.01$ ）。

5. 考察

否定的感情反応尺度で測定された気質特徴は、養育者が記述した対応の困難さを示す子どもの特徴との関連が認められた。ところで、否定的感情反応尺度は、幼児自身の問題行動⁶⁾や養育者の育児不安⁷⁾との関連性が指摘されている。よって、養育者が対応に困難を感じる特徴を記述した場合、後の問題を予防するよう、気質に応じた対応を専門家が助言していく必要があると考えられる。

一方、落ち着きがないという特徴と関連性が予測される注意の転導性尺度は、落ち着きのなさだけでなく、切り替えが早く、関わりやすい特徴として記述された。注意の転導性尺度と養育者が育てやすい特徴として記述する規則性尺度は、子どもの問題行動に結びつきにくいことが指摘されている⁶⁾。よって、“落ち着きのなさ”

表3 各特徴の該当群・非該当群との気質尺度得点の差

			下位尺度名											
幼児の特徴	該当・ 非該当	N	否定的感情反応				外向性				順応性			
			平均値	標準 偏差	t値	有意性	平均値	標準 偏差	t値	有意性	平均値	標準 偏差	t値	有意性
活発	該 当 非該当	926 423	2.4 2.4	.50 .53	.58		3.3 3.0	.34 .41	12.68	**	2.5 2.8	.55 .56	- 6.85	**
好奇心旺盛	該 当 非該当	980 369	2.4 2.4	.50 .52	-.05		3.3 3.1	.35 .42	10.63	**	2.5 2.8	.56 .54	- 6.24	**
甘えん坊	該 当 非該当	786 563	2.4 2.3	.51 .48	5.08	**	3.2 3.3	.39 .38	- 1.89		2.7 2.5	.55 .56	4.68	**
気が強い	該 当 非該当	542 807	2.5 2.3	.48 .51	6.61	**	3.3 3.2	.36 .39	4.32	**	2.6 2.6	.55 .57	-.35	
短気	該 当 非該当	296 1,053	2.7 2.3	.47 .48	12.23	**	3.3 3.2	.40 .38	3.20	**	2.6 2.6	.56 .56	-.79	
感情の起伏 が激しい	該 当 非該当	242 1,107	2.8 2.3	.42 .48	15.51	**	3.3 3.2	.42 .38	1.70		2.6 2.6	.55 .57	.44	
わがまま	該 当 非該当	329 1,020	2.6 2.3	.47 .49	11.18	**	3.3 3.2	.41 .38	1.65		2.6 2.6	.59 .55	.73	
好き嫌いが はっきり	該 当 非該当	461 888	2.5 2.3	.51 .49	4.78	**	3.3 3.2	.38 .39	1.20		2.7 2.6	.55 .57	3.29	**
よく泣く	該 当 非該当	313 1,036	2.7 2.3	.47 .48	12.82	**	3.2 3.3	.41 .38	- 1.52		2.7 2.6	.59 .55	3.82	**
頑固	該 当 非該当	407 942	2.5 2.3	.47 .45	8.80	**	3.3 3.2	.39 .38	.79		2.6 2.6	.54 .57	1.06	
積極的	該 当 非該当	378 971	2.4 2.4	.51 .50	-.08		3.4 3.2	.33 .39	10.60	**	2.4 2.7	.55 .55	- 7.77	**
明るい	該 当 非該当	778 571	2.3 2.4	.50 .50	- 3.24	**	3.3 3.1	.35 .40	9.76	**	2.5 2.7	.56 .55	- 5.83	**
のんびり	該 当 非該当	107 1,242	2.2 2.4	.58 .50	- 3.80	**	3.0 3.3	.39 .38	- 6.44	**	2.8 2.6	.53 .56	3.96	**
大人しい	該 当 非該当	81 1,268	2.2 2.4	.51 .50	- 2.44	*	2.9 3.3	.44 .37	- 7.44	**	2.9 2.6	.57 .56	5.01	**
優しい	該 当 非該当	311 1,038	2.2 2.4	.52 .50	- 4.55	**	3.3 3.2	.37 .39	1.89		2.6 2.6	.57 .56	.41	
育てやすい	該 当 非該当	467 882	2.1 2.5	.47 .49	-11.86	**	3.2 3.3	.39 .38	-.19		2.6 2.6	.56 .56	- 2.18	*
素直	該 当 非該当	212 1,137	2.1 2.4	.49 .50	- 6.95	**	3.3 3.2	.39 .38	1.78		2.6 2.6	.60 .56	.24	
機嫌がよい	該 当 非該当	365 984	2.1 2.4	.49 .48	-10.78	**	3.3 3.2	.38 .38	2.88	**	2.5 2.6	.58 .55	- 4.74	**
人見知りが ない	該 当 非該当	403 946	2.3 2.4	.50 .51	- 2.15	*	3.4 3.2	.35 .39	7.60	**	2.1 2.8	.44 .48	-23.94	**
マイペース	該 当 非該当	446 903	2.3 2.4	.48 .52	- 1.84		3.2 3.3	.38 .39	- 2.78	*	2.6 2.6	.57 .56	- 1.05	
落ち着きが ない	該 当 非該当	245 1,104	2.6 2.3	.53 .49	7.16	**	3.4 3.2	.34 .38	8.41	**	2.5 2.6	.61 .55	- 4.28	**
よく気が付 く	該 当 非該当	277 1,072	2.3 2.4	.55 .49	-.43		3.3 3.2	.36 .39	2.85	**	2.7 2.6	.57 .56	1.63	
臆病	該 当 非該当	187 1,162	2.5 2.3	.50 .50	3.46	**	3.1 3.3	.42 .37	- 5.04	**	2.8 2.6	.56 .56	5.13	**
辛抱強い	該 当 非該当	104 1,245	2.3 2.4	.48 .51	- 1.25		3.3 3.2	.44 .38	.44		2.6 2.6	.58 .56	-.18	
きれいい好き	該 当 非該当	212 1,137	2.3 2.4	.54 .50	-.39		3.3 3.2	.38 .38	2.55	*	2.7 2.6	.55 .56	2.82	*

表 3 各特徴の該当群・非該当群との気質尺度得点の差（続き）

幼児の特徴		該当・ 非該当	N	下位尺度名											
				神 経 質				規 則 性				注意の転導性			
				平均値	標準 偏差	t値	有意性	平均値	標準 偏差	t値	有意性	平均値	標準 偏差	t値	有意性
活発	該 当 非該当	926 423	2.3	.41	.99			3.1	.48	1.53		3.2	.37	.64	
			2.2	.42				3.0	.47			3.2	.36		
好奇心旺盛	該 当 非該当	980 369	2.2	.41	- .19			3.1	.48	.45		3.2	.36	1.48	
			2.3	.41				3.1	.47			3.1	.38		
甘えん坊	該 当 非該当	786 563	2.2	.40	- .93			3.1	.48	- .90		3.2	.37	.31	
			2.3	.42				3.1	.48			3.2	.37		
気が強い	該 当 非該当	542 807	2.3	.41	1.16			3.1	.49	- .45		3.2	.37	.79	
			2.2	.41				3.1	.47			3.2	.37		
短気	該 当 非該当	296 1,053	2.2	.42	- 3.86	**		3.0	.50	- 3.15	**	3.2	.38	1.48	
			2.3	.40				3.1	.47			3.2	.36		
感情の起伏 が激しい	該 当 非該当	242 1,107	2.1	.41	- 4.86	**		2.9	.49	- 4.71	**	3.2	.39	- .31	
			2.3	.41				3.1	.47			3.2	.37		
わがまま	該 当 非該当	329 1,020	2.1	.42	- 5.59	**		2.9	.50	- 5.74	**	3.1	.38	- .88	
			2.3	.40				3.1	.46			3.2	.36		
好き嫌いが はっきり	該 当 非該当	461 888	2.3	.42	.83			3.0	.49	- 1.33		3.2	.38	- .25	
			2.2	.41				3.1	.47			3.2	.36		
よく泣く	該 当 非該当	313 1,036	2.1	.40	- 5.60	**		3.0	.51	- 3.71	**	3.2	.37	.64	
			2.3	.41				3.1	.47			3.2	.37		
頑固	該 当 非該当	407 942	2.2	.42	- 1.48			3.0	.48	- 2.68	**	3.2	.37	- .62	
			2.3	.41				3.1	.48			3.2	.37		
積極的	該 当 非該当	378 971	2.3	.42	1.92			3.1	.50	- .28		3.2	.37	2.43	*
			2.2	.41				3.1	.47			3.1	.37		
明るい	該 当 非該当	778 571	2.3	.41	4.05	**		3.1	.48	3.07	**	3.2	.36	4.94	*
			2.2	.40				3.0	.48			3.1	.37		
のんびり	該 当 非該当	107 1,242	2.3	.40	.12			3.1	.50	.52		3.1	.39	- 1.15	
			2.2	.41				3.1	.48			3.2	.37		
大人しい	該 当 非該当	81 1,268	2.4	.45	3.14	*		3.0	.50	- .51		3.2	.41	1.51	
			2.2	.41				3.1	.48			3.2	.36		
優しい	該 当 非該当	311 1,038	2.4	.39	8.94	**		3.1	.44	1.68		3.2	.37	3.11	**
			2.2	.40				3.1	.49			3.1	.37		
育てやすい	該 当 非該当	467 882	2.3	.41	6.08	**		3.2	.46	6.27	**	3.2	.36	3.08	**
			2.2	.40				3.0	.48			3.1	.37		
素直	該 当 非該当	212 1,137	2.4	.39	7.22	**		3.2	.45	5.48	**	3.2	.38	2.29	*
			2.2	.40				3.0	.48			3.2	.37		
機嫌がよい	該 当 非該当	365 984	2.3	.42	4.42	**		3.2	.47	5.56	**	3.2	.36	2.45	*
			2.2	.40				3.0	.48			3.1	.37		
人見知りか ない	該 当 非該当	403 946	2.2	.40	- 1.89			3.0	.49	- 1.34		3.2	.36	- .12	
			2.3	.41				3.1	.48			3.2	.37		
マイペース	該 当 非該当	446 903	2.2	.41	- 1.90			3.1	.48	- 0.09		3.1	.36	- 1.51	
			2.3	.41				3.1	.48			3.2	.37		
落ち着きか ない	該 当 非該当	245 1,104	2.2	.41	- 3.96	**		2.9	.49	- 4.67	**	3.2	.35	3.16	**
			2.3	.41				3.1	.47			3.1	.37		
よく気が付 く	該 当 非該当	277 1,072	2.4	.41	6.31	**		3.1	.49	.25		3.2	.36	3.32	**
			2.2	.40				3.1	.48			3.1	.37		
臆病	該 当 非該当	187 1,162	2.2	.41	- 2.28	*		3.0	.43	- 1.09		3.2	.40	.52	
			2.3	.41				3.1	.49			3.2	.36		
辛抱強い	該 当 非該当	104 1,245	2.4	.44	2.78	**		3.2	.49	3.05	**	3.2	.38	.46	
			2.2	.41				3.1	.48			3.2	.37		
きれいな好き	該 当 非該当	212 1,137	2.5	.40	9.44	**		3.1	.51	- .73		3.3	.37	3.68	**
			2.2	.40				3.1	.47			3.1	.36		

**p<0.01, *p<0.05

として記述されても後の問題には発展せず, 専門家の介入を必要としない気質特徴と考えられる。

また, 外向性尺度は, 養育者が子どもの新しいことへの積極性をどのように認知するかということを示す特徴として記述され, 順応性尺度は, 養育者が子どもの環境への慣れをどのように認知するかという特徴で記述されていた。また, 神経質尺度は, 養育者が子どもの情緒面の育てやすさや育てにくさについて記述することと関連がみられた。これらの3つの尺度が示す気質特徴は, 気質尺度が示す項目内容と同一の特徴を養育者が記述すると考えられる。

以上のように, 気質尺度で測定された気質特徴と養育者が記述する子どもの特徴との間には一定の関連性を見出された。しかし, “落ち着きがない” “明るい” “機嫌がよい” という特徴は6つの気質尺度のすべてと関連が認められた。よって, 養育者が記述する “落ち着きがない” “明るい” “機嫌がよい” といった特徴は, 気質特徴と関連性がある特徴と考えられるが, 気質特徴の違いにかかわらず, 本調査の対象となった1歳半から2歳前の年齢において共通して見出される特徴と考えられる。

養育者が子どもの特徴を認知した際に, それをより客観的, 詳細な指標で把握することで, 子どもの発達にとって適切な関わりが検討できるだけでなく, 養育者自身の心の安定をはかる助言も可能になると考えられる。しかし, 今回確認された結果は, 同一の回答者が気質質問紙と幼児の特徴について同時に回答した内容を分析して得られたものである。また, 養育者が記述する幼児の特徴について, 詳細に検討するのに十分な資料は得られていない。以上のことから, 今後は養育者へのインタビューや実際の子どもの行動を測定し, 認知された特徴と気質特徴との関連性について検討していく必要があると考えられる。

IV. 結 語

1. 養育者は子どもの特徴を活動性および活動の質に関する内容で認知する傾向が認められた。
2. 養育者が認知した子どもの特徴と気質尺度

で把握される気質特徴との間に一定の関連性が認められた。しかし, 養育者が認知した特徴のなかには, 気質特徴の違いにかかわらず, 1歳半から2歳児において共通して見出される特徴が認められた。

本研究は平成14年川崎医療福祉大学プロジェクト研究費, 平成15年文部科学省科学研究費(若手研究B)の助成を受けて実施し, 研究1は日本心理臨床学会第22回大会, 研究2は日本心理学会第68回大会にて発表された。

謝 辞

本研究の実施にあたり, 倉敷市保健所所長ならびに職員の皆様には大変お世話になりました。本論文作成にあたり, 川崎医療福祉大学大学院の門田昌子氏は資料整理, 川崎医療福祉大学寺崎正治先生には貴重なご意見をいただきました。また, 川崎医療福祉大学高尾堅司先生には論文構成にあたって, 丁寧にご指導をいただきました。ここに謝意を表します。

文 献

- 1) 刀根洋子. 保育園児を持つ親のQOL—発達不安との関係. 小児保健研究 2000; 4: 493-499.
- 2) 佐藤達哉, 菅原ますみ, 戸田まり他. 育児に関連するストレスとその抑うつ重症度との関連. 心理学研究 1994; 64: 409-416.
- 3) 刀根洋子. 発達障害児の母親のQOLと育児ストレス—健常児の母親との比較—. 日本赤十字武蔵野短期大学紀要 2002; 15: 17-23.
- 4) 庄司順一. 乳幼児の気質と発達. ぐんま小児保健 2000; 58: 58-68.
- 5) 武井祐子, 門田昌子, 笹川美奈子他. 養育者がとらえる幼児の行動様式に関する一研究—幼児気質質問紙作成の試み—. 日本心理学会第68回大会発表論文集 2004; 1021.
- 6) 武井祐子, 寺崎正治. 養育者がとらえる幼児の行動特徴に関する研究—1歳6ヶ月健診用気質質問紙とCBCLの関係—. 川崎医療福祉学会誌 2005; 14: 261-266.
- 7) 堀 寛子, 武井祐子, 寺崎正治. 母親の育児不安と幼児の気質との関連について. 中国四国心理学会第60回大会発表論文集 2004; 29.
- 8) 武井祐子, 水子 学, 清水光弘他. 幼児の行動

特徴に関する研究Ⅰ—気質質問紙と観察データの比較—, 中国四国心理学会第60回大会発表論文集 2004; 26.

- 9) 水子 学, 武井祐子, 清水光弘他. 幼児の行動特徴に関する研究Ⅰ—気質質問紙と観察データの比較—, 中国四国心理学会第60回大会発表論

文集 2004; 27.

- 10) 武井祐子, 寺崎正治. 養育者がとらえる幼児の行動様式に関する研究—幼児気質質問紙と観察された行動との関係—. 川崎医療福祉学会誌 2006; 15; 377-383.